

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
3823007	読書と豊かな人間性	河合 龍二			2	選択	1後期

**科目の概要**

本科目は学校図書館における読書活動について、「学び」と「読書」を軸にしながら、読書活動の意義と目的や、読書教育の歴史や児童文学の変遷について系統的に学ぶ科目である。これはディプロマポリシーの②と③に該当する。講義内では、子どもの発達段階に応じた作品や指導方法を念頭に置きながら、学校図書館における読書、そして教育カリキュラムを支える読書の在り方についても体験的にとりあげていく。これは、ディプロマポリシーの⑥に該当する。  
 ★司書教諭、学校司書として学校図書館の読書センター機能をいかした読書指導にさまざまな場面で取り組んできた経験を生かし、より実践的に読書活動を取りあげていく。

学修内容	到達目標
① 読書の意義と読書教育について知る。 ② 読書教育の歴史について知る。 ③ 学校図書館と読書指導の関わりについて理解する。 ④ 子どもの読書の実情と読書環境について理解する。 ⑤ 学校図書館における子どもの読書環境の整備、およびその評価について知る。 ⑥ 子ども読書の発達段階と読書教育について知る。 ⑦ 子どもと本を結びつける活動について知る。 ⑧ 各教科や探究的な学習における学校図書館の活用について知る。 ⑨ 一人ひとりのニーズに応じた読書活動のあり方を知る。 ⑩ 学校図書館と家庭、社会教育施設等の連携について知る。	① 読書にはどのような意義や目標があるか述べることができる。② ② 読書教育の歴史について説明することができる。② ③ 学校図書館と読書指導の関わりについて説明することができる。③ ④ 子ども読書の環境を実例を挙げて説明することができる。④ ⑤ 子ども読書の活動推進について教育行政を基に説明することができる。③ ⑥ 子ども読書の発達段階とそれぞれの段階に応じた読書指導について説明をすることができる。③ ⑦ 子どもと本をつなぐ方法を知り、実践することができる。⑥ ⑧ 各教科や探究的な学習と学校図書館の関わりについて説明することができる。③ ⑨ 一人ひとりのニーズに応じた読書活動について例を挙げるることができる。③ ⑩ 学校図書館と家庭、社会教育施設等の連携について説明することができる。⑥

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	主体的に講義に参加し、意見を述べたり、質問したりすることができる。課題のために必要な知識について、教科書・文献等を使って自己学習することができる。
	働きかけ力	
	実行力	実習時や課題が出されたとき、しっかり取り組み、手順や方法を考えながら決められた時間の中で確実にやり遂げることができる。
考え抜く力	課題発見力	講義やディスカッションの中で、何が課題になっているかを見極め、それらを解決するためにはどうすればよいか考えながら取り組むことができる。
	計画力	
	創造力	意見発表や成果物作成等において、自ら考え、創造的にまとめることができる。
チームで働く力	発信力	読書活動の実演や発表時、聞き取りやすい声の大きさ、スピードに気を付け、的確に伝えることができる。
	傾聴力	講義のときやグループディスカッションのとき、メモを取ったり、相手をよくみて頷くなど豊かに反応しながら聞くことができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

**テキスト及び参考文献**

テキスト：『読書と豊かな人間性』金沢みどり・河村俊太郎著 勉誠出版 2023年 2200円  
 参考文献：『図書館情報学基礎資料 第4版』今まど子・小山 憲司 編著 樹村房 2020年 1100円  
 『本を読む本』 M.J. アドラー C.V. ドーレン著 外山滋比古 榎未知子訳 講談社文庫 1997年 1070円  
 その他講義内で指示する。

**他科目との関連、資格との関連**

他教科との関連：学校図書館に関する科目全て  
 関連する資格：学校司書

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内で紹介した法規、ニュース等には積極的にアクセスし、常に最新の情報を取り入れることを心がけること。</li> <li>子ども読書の環境について興味・関心を持ち、積極的に読んだり、学んだりすること。</li> <li>大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、その利活用について関心を持つこと。</li> <li>講義毎に資料等を読み直し、学習内容を振り返り、まとめておくこと。</li> <li>読書活動等の実習では、積極的に取り組むこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義毎に振り返りシートの作成を課す。しっかりまとめてから、次回の講義に臨むこと。</li> <li>講義でパソコンを使用するときは事前に指示する。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①	⑥		
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
	平常評価	小テスト	30	①	⑥	評価ポイント ・読書の意義や目標について説明できる。 ・読書教育の歴史について説明できる。 ・学校図書館と読書指導の関わりについて説明できる。 ・子どもの読書環境や読書活動推進について説明できる。 ・子どもの発達段階とそれに応じた読書指導の方法について説明できる。 ・学校図書館と家庭、社会教育施設等の連携について理解できている。 ・各教科や探究的な学習と読書指導の関わりについて理解できている。 ・一人ひとりのニーズに応じた読書活動の方法について理解できている。
				②	⑦	
				③	⑧	
				④	⑨	
				⑤	⑩	
		レポート	40	①	⑥	講義毎に振り返りシートの作成を課す。 各回毎の評価ポイント ① 講義の内容を振り返り、「読書とは何か」ということについて、自分なりの考えをまとめている。 ② 日本における読書教育の歴史について、ポイントを押さえてまとめている。 ③ 学校図書館が読書指導に果たす役割について、ポイントを押さえてまとめている。 ④ 講義の内容を受け、自分自身の読書活動について振り返りまとめている。 ⑤ 子どもが初めて出会う絵本や幼年童話、児童文学の特長についてポイントを押さえてまとめている。 ⑥ ノンフィクション、知識の本、科学読み物、レファレンスブック、YA、マンガ、電子書籍などの特長についてポイントを押さえてまとめている。 ⑦ 学校図書館の読書環境整備と、学校図書館資料の取り扱い方についてポイントを押さえてまとめている。 ⑧ 子どもの読書に関する発達段階に応じた読書能力や読書興味の発達について、ポイントを押さえてまとめている。 ⑨ 物に気になった読書活動について実践し、感じたことを自分なりに分析し、記録している。 ⑩ 自分が行った読書活動を振り返り、課題を見つけて修正するするとともに、今後の課題ややってみようことについてまとめている。 ⑪ 各教科や特別活動における学校図書館の活用について、ポイントを押さえてまとめている。 ⑫ 探究的な学習と読書活動の関わり、および探究のプロセスについて、ポイントを押さえてまとめている。 ⑬ 学校図書館の広報活動や、家庭、地域社会との連携について、ポイントを押さえてまとめている。 ⑭ 学校図書館の広報活動や、家庭、地域社会との連携について、ポイントを押さえてまとめている。
				②	⑦	
				③	⑧	
				④	⑨	
				⑤	⑩	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①	⑥	装備実習および、読書活動発表の取り組みの様子から判断する。詳細は講義内で示す。		
		②	⑦			
		③	⑧			
		④	⑨			
		⑤	⑩			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	⑥	（主体性） ・主体的に講義に参加し、意見を述べたり、質問したりすることができる。課題のために必要な知識について、教科書・文献等を使って自己学習することができる。 （実行力） ・実習や課題が出されたとき、しっかり取り組み、手順や方法を考えながら決められた時間の中で確実にやり遂げることができる。 （課題発見力） ・課題やディスカッションの中で、何が課題になっているかを見極め、それらを解決するためにはどうすればよいか考えながら取り組むことができる。 （創造力） ・意見発表や成果物作成等において、自ら考え、創造的にまとめることができる。 （発信力） ・発表時、聞き取りやすい声の大きさ、話すスピードに気を付け、的確に伝えることができる。 （傾聴力） ・講義のときやグループディスカッションのとき、相手をよくみて顔いたり、メモをとるなどして、反応をしながら聞くことができる。 （規律性） ・遅刻・無断欠席など学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守るすることができる。 ・欠席した場合は、欠席届を提出する。	
			②	⑦		
			③	⑧		
			④	⑨		
			⑤	⑩		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S(秀)評価</p> <p>① 主体的に講義に参加するとともに、毎回の振り返りシートで9割以上達成できている。</p> <p>② 最終レポート等では問われている内容を把握し、ポイントを押さえて9割以上答えることができている。</p> <p>③ 成果発表で9割以上達成できている。</p> <p>④ 社会人基礎力にある学修態度が9割以上達成できている。</p> <p>A(優)評価</p> <p>① 主体的に講義に参加するとともに、毎回の振り返りシートで8割以上達成できている。</p> <p>② 学期末試験では問われている内容を把握し、ポイントを押さえて8割以上答えることができている。</p> <p>③ 成果発表で8割以上達成できている。</p> <p>④ 社会人基礎力にある学修態度が8割以上達成できている。</p>	<p>B(良)評価</p> <p>① 主体的に講義に参加するとともに、毎回の振り返りシートで7割以上達成できている。</p> <p>② 最終レポート等では問われている内容を把握し、ポイントを押さえて7割以上答えることができる。</p> <p>③ 成果発表で7割以上達成できている。</p> <p>④ 社会人基礎力にある学修態度が7割以上達成できている。</p> <p>C(可)評価</p> <p>① 主体的に講義に参加するとともに、毎回の振り返りシートで6割以上達成できている。</p> <p>② 最終レポート等では問われている内容を把握し、ポイントを押さえて6割以上答えることができている。</p> <p>③ 成果発表で6割以上達成できている。</p> <p>④ 社会人基礎力にある学修態度が6割以上達成できている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	読書の意義と目的(オリエンテーション) 読書とは何か、学校図書館における読書指導の意義とは何かについて考える。 生涯学習の基盤としての読書力の必要性を知る。 講義の内容や評価方法等を知り、講義に対する見通しを持つ。	講義・ディスカッション	読書とは何かということについて、自分なりの考えを持つ。	(復習) 講義の内容を振り返り、「読書とは何か」ということについて、自分なりの考えをまとめる。振り返りシートは、Googleclassroomで提出する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
2	読書教育の歴史 子どもの読書教育の歴史について、時代背景や子どもたちを取り巻く状況を踏まえながら理解する。	講義・ディスカッション	読書教育の変遷について理解する。	(復習) 日本における読書教育の歴史について、まとめる。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
3	学校図書館と読書指導 学校図書館の目的と機能、学校図書館の教育力について知る。学校図書館における学校司書と司書教諭の役割について考察する。	講義・ディスカッション	学校図書館の教育力について理解する。	(復習) 学校図書館が読書指導に果たす役割について、まとめる。	180	主体性 実行力 発信力 傾聴力 規律性
4	子どもの読書の実情と読書環境 海外や日本の子どもの読書の実情を知る。子どもの読書に関する法律や施策、読書調査などの結果から子どもたちが置かれている読書環境について知る。子どもの読書活動の法律の変遷について学ぶ。	講義・ディスカッション	自分自身の読書活動について振り返ることができる。	(復習) 講義の内容を受け、自分自身の読書活動についてまとめる。	180	主体性 実行力 発信力 傾聴力 規律性
5	子どもの本の理解 (1) 初めて出会う本、絵本、幼年童話、児童文学などの特長について学ぶ。	講義・ディスカッション	絵本、幼年童話、児童文学の特徴を知る。	(復習) 子どもが初めて出会う絵本や幼年童話、児童文学の特長についてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	子どもの本の理解 (2) ノンフィクション、知識の本、科学読み物、レファレンスブック、YA、マンガ、電子書籍などの特長について学ぶ。	講義・ディスカッション	ノンフィクション、知識の本、科学読み物、レファレンスブック、YA、マンガ、電子書籍などの特長を知る。	(復習) ノンフィクション、知識の本、科学読み物、レファレンスブック、YA、マンガ、電子書籍などの特長についてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力
7	学校図書館における子どもの読書環境の整備/メディアの選択と評価 子どもを取り巻く読書環境の現状、さまざまな形態やジャンルの図書について学ぶ。学校図書館資料の選択や分類、装備や配架、評価と更新などについて学ぶ。電子書籍やICT活用など、新しい学校図書館資料について知る。	講義・ディスカッション	学校図書館における読書環境の整備の必要性について知る。	(復習) 学校図書館の読書環境整備と、学校図書館資料の取り扱い方についてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 規律性
8	子どもの読書に関する発達段階と読書教育 子どもの発達段階に応じた読書能力の発達と、読書興味の発達について学ぶ。 読書の導入的指導について、楽しみや生き方に関わる読書を中心に、発達段階に応じた資料を提示しながら考える。	講義・ディスカッション	発達段階と読書教育の関わりについて知る。	(復習) 子どもの読書に関する発達段階に応じた読書能力や読書興味の発達についてまとめる。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	児童生徒と本をつなぐ (1) 読み聞かせ、ストーリーテリング、パネルシアター、エプロンシアター、読書へのアニメーション、ブックトーク、ビブリオバトル、リテラチャー・サークルなどの読書活動の方法を知る。	講義・ディスカッション	さまざまな読書活動の方法があることを知る。	(復習) 特に気になった読書活動について実践し、感じたことを記録する。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	児童生徒と本をつなぐ (2) グループで読書活動の実習を行い、お互いにフィードバックを行う。	実習 グループワーク	グループ内で、自分が選んだ読書活動を実際に行うことができる。	(復習) 自分が行った読書活動を振り返り、課題を見つけて修正する。今後の課題ややってみたいことについてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	各教科などにおける学校図書館の活用と読書指導 各教科と読書に関わりについて学ぶ。また、読書の展開的指導について、調べ学習を中心に、教科指導や総合的な学習の時間等における指導に重点を置きながら学ぶ。	講義・ディスカッション	各教科や特別活動における学校図書館の活用について知る。	(復習) 各教科や特別活動における学校図書館の活用についてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	探究的な学習における学校図書館や情報の活用と読書指導 探究的な読書や、探究のプロセスモデルについて学ぶとともに、高度な探究的な学習活動にむけた図書館利用について学ぶ。	講義・ディスカッション	探究的な学習と、探究のプロセスについて知る。	(復習) 探究的な学習と読書活動の関わり、および探究のプロセスについてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
13	一人ひとりのニーズに応じた読書支援 読むことに困難がある児童生徒や外国にルーツのある児童生徒の読書を支援する方法やメディアを知る。	講義・ディスカッション	一人ひとりのニーズに応じた読書記録のあり方を知る	(復習) 一人ひとりのニーズに応じた支援のあり方についてまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
14	地域社会との連携による子どもの読書活動の推進 地域、公共図書館との連携を考える中で、生涯学習としての読書のあり方について学ぶ。また学校図書館支援センターの役割を知る。	講義・ディスカッション	学校図書館と地域社会との連携について考えることができる。	(復習) 地域社会との連携や学校図書館支援センターの役割についてまとめる。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	読書教育の課題と今後の展望 これまでの学習内容を振り返り、学校図書館における読書活動及び読書指導についてまとめるとともに、学校図書館の現状や今後の課題について考察する。	講義・ディスカッション	読書教育の課題と今後の展望について考えることができる。	(復習) 読書教育の課題と今後の展望について考え、まとめることにより、読書教育に積極的に関わる気持ちを持つ。	180	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力